

61. 衿幅と衿腰の関係及び作図法に対する一考察

(第3報)

名古屋市立女子短大 住田八重子

1. 第2報にひきつづき此の度は、さきに使用した原型をもって、衿ぐりを肩線の位置において N. P. から1糎2糎……10糎までくりこみ、持出し、折返り線止り、衿幅衿腰をそれぞれ変化させて倒しの状態を考察した。

2. まず衿ぐりの作図法について考察し1糎から10糎までの衿ぐりを実物製作して特に脊後及び側面を着用観察した。次に衿幅の増加に伴う後衿外回寸法を1糎から13糎まで作図し、計算及び実測した。この各々の数値から実験公式を求め、これに基づいて、ノモグラフを作製し衿幅、衿腰、持出し、折返り線止りの位置及び衿ぐりの5つの要素を変化させて倒しの数値を求めた。この際衿ぐりの増加と衿腰の関係について特に考察をこころみた。なおこの中から8点を選出して実物製作をし着用観察した。

3. 1) 後衿ぐりは1糎増すごとに約 0.9 糎の増加を示した。後衿外回線は1糎増すごとに約 1.2 糎の増加を示した。これにより実験公式を求めることが出来た。

2) 衿ぐりが大きくなる程、すなわち肩線と折返り線とによって作られる角度が大きくなる程、倒しの数値は増加する。この際等差の数値も相当見出すことが出来た。

3) 折返り線を一定の位置に定めて、衿ぐりを変化させた場合、衿ぐりが大きくなるにつれて(すなわち衿腰が高くなる)倒しの数値は減少する。この場合衿幅が広くなる程、各々の数値のひらきは大きくなる。